

管内沿岸域流況調査
報告書

平成23年10月

第九管区海上保安本部

1 目的

平成23年度海洋情報業務計画に基づき、管内沿岸域において航空機による流況状況の確認を行い、マリンレジャー活動に係る安全推進、漂流予測の精度向上に資する基礎資料を得るものとする。

2 調査海域（「付図」参照）

新潟県沿岸域及び石川県沿岸域

3 実施職員

(1) 現地作業班

班長	海洋情報部海洋調査課海洋調査官	渡辺 健志
班員	〃 海洋調査官付	高田 聖士

(2) 資料整理班

班長	海洋情報部海洋調査課海洋調査官	渡辺 健志
班員	〃 海洋調査官付	高田 聖士

4 調査期間及び経過概要

(1) 現地作業期間

平成23年10月31日の1日間

(2) 資料整理期間

平成23年11月1日から平成24年2月10日までのうち30日間

(3) 経過概要

航空機に同乗しての調査は、石川県沿岸域も行う予定であったが、天候不良のため、新潟県沿岸域のみとなった。

石川県沿岸域の目視観測は行えなかったが、平成23年11月3日に新潟航空基地職員が同海域の写真撮影を行ったため、その写真も使用して報告書を作成した。

日次	月日	内容
1	10月31日	新潟航空基地離陸 新潟県沿岸域調査 新潟航空基地着陸

5 調査方法

新潟航空基地所属の航空機に同乗して、離岸流等の特異な流れ及びそれに関わる事象について、目視による観察及びデジタルカメラを使用しての撮影を行った。

新潟航空基地を離陸し、海岸線に沿って石地海岸まで調査を行った。石地海岸での調査が終了した後、往路と同様に海岸線に沿って新潟航空基地に向かい、着陸した。

6 使用した船舶又は航空機の種別又は名称

新潟航空基地所属 MH904

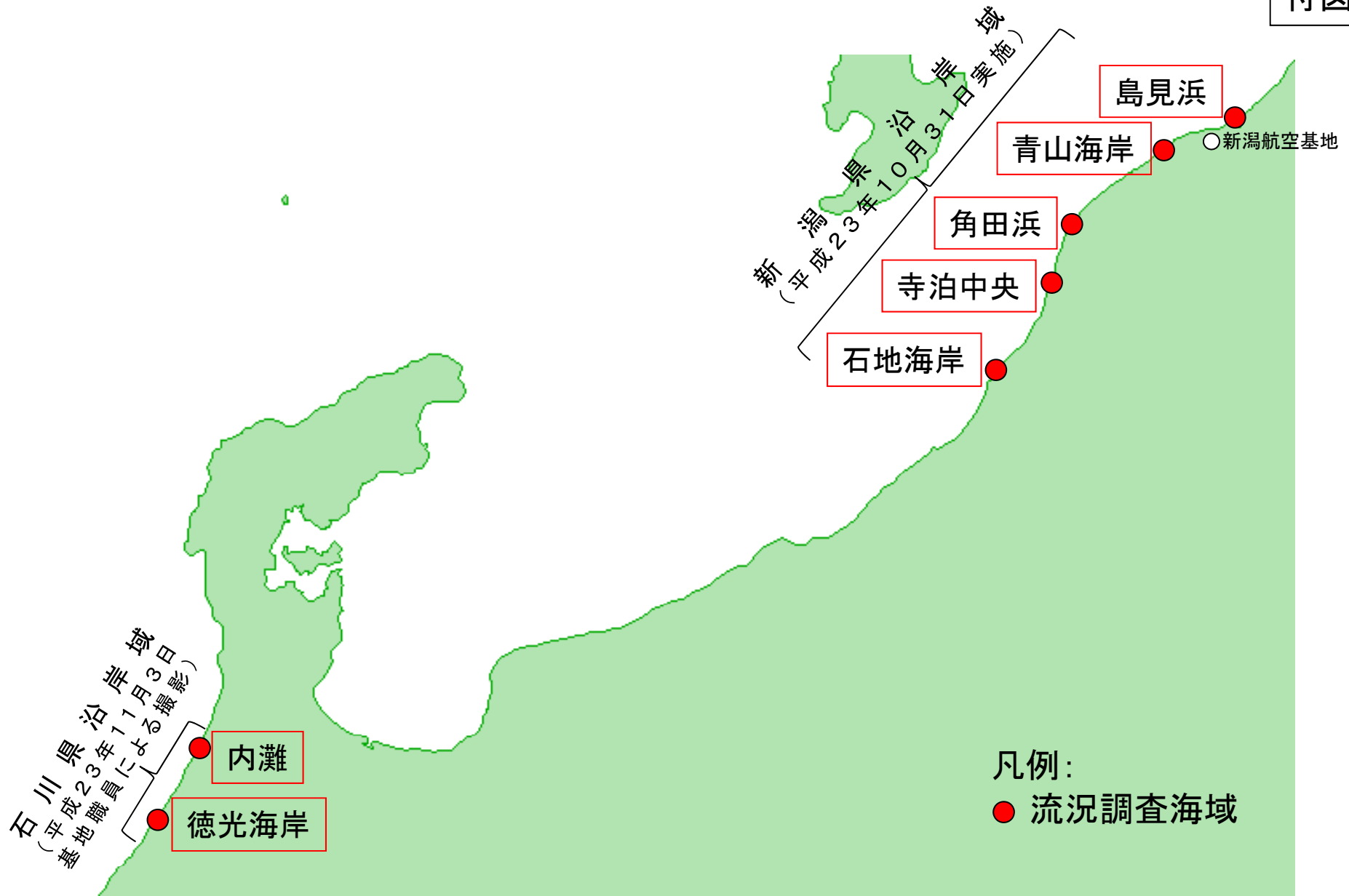
7 調査結果（「写真集」参照）

離岸流が確認しづらい海域もあったが、砂の流れ出る様子や波の切れ間等からの離岸流を確認した。

当時の気象は、北寄りの風約2～4 m/s、波高約0.5～0.8 mであった。

調査海域図

付図



(1) 島見浜海水浴場

写真集



昨年度の離岸流発生場所付近において、離岸流を確認することができなかった。
気象庁HP(新潟)の1520の風は、北(写真下側からの風)約2m/sであった。

(2) 青山海岸海水浴場



離岸流による事故は、認知していないが、離岸流が発生しやすい人工構造物(離岸堤)が存在していたため、調査を行った。

離岸堤の切れ間から海水が入り込み、海岸線の凸部から砂が沖に流れ出る様子(赤色矢印)を確認した。気象庁HP(新潟)の1510の風は、北北西(写真下側からの風)約3m/sであった。

(3) 角田浜海水浴場



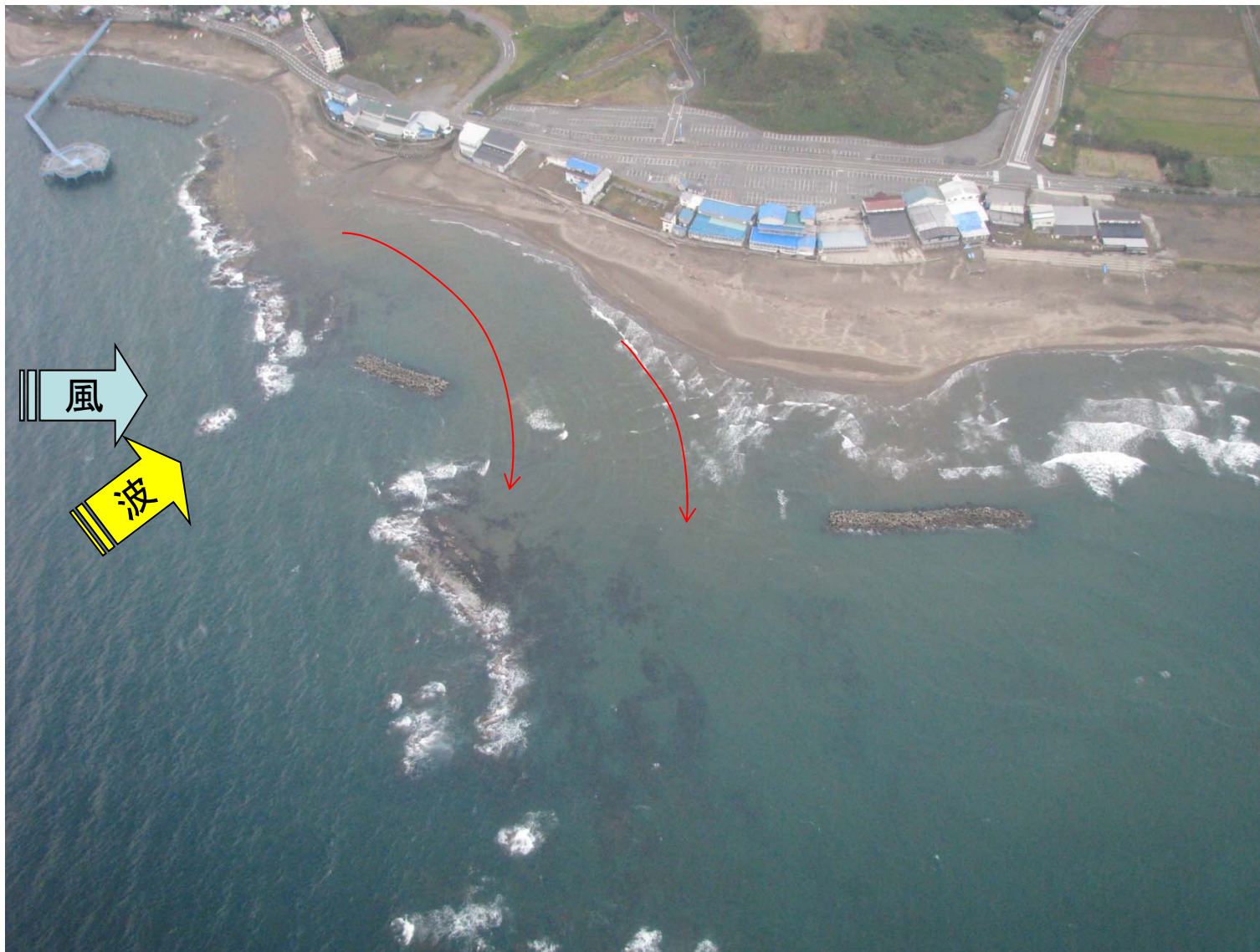
今年度の離岸流発生場所付近において、波の切れ間からの離岸流(赤線矢印)を確認した。しかし、波で砂が巻き上がり発生した濁り水が、沖に流れ出る様子は確認できなかった。気象庁HP(寺泊)の1450の風は、北北西(写真左側からの風)約4m/sであった。

(4) 寺泊中央海水浴場



一昨年度の離岸流発生場所付近において、離岸流を確認することができなかった。
川からの濁った水が、風下に流れる様子(赤色矢印)を確認した。
気象庁HP(寺泊)の1450の風は、北北東(写真左上側からの風)約1m/sであった。

(5) 石地海水浴場



川の濁りや砂が沖に流れ出る様子(赤色矢印)を確認した。
気象庁HP(寺泊)の1430の風は、北(写真左側からの風)約2m/sであった。

(5) 石地海水浴場



この海水浴場は、岩場等により狭水路となっている場所から離岸流が発生することが推測される。

(6)内灘海水浴場



昨年度の離岸流発生場所付近において、海岸線の凸部から砂が沖に流れ出る様子(赤色矢印)を確認した。気象庁HP(かほく)の1210の風は、北北西(写真左上側からの風)約3m/sであった。

(7) 徳光海岸



今年度の離岸流発生場所付近において、海岸線の凸部から砂が沖に流れ出る様子(赤色矢印)を確認した。気象庁HP(小松)の1220の風は、北北西(写真下側からの風)約2m/sであった。